

# 人口減少時代の地域コミュニティのあり方 報告書

～持続可能な地域共生社会に向けて～

2020年（令和2年）1月

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会



## はじめに…

福山市では、2006年度（平成18年度）から、地域と行政が「協働のまちづくり」の理念のもと、補完・協力し合いながら地域課題の解決に取り組み、自助・共助・公助による住みよいまちづくりを進めています。

私たち福山市地域コミュニティのあり方検討委員会では、人生100年時代を迎えるなかで、人口減少が進むこれからの地域社会にあっても、地域で支え合いながら暮らせる地域コミュニティの形を描くため、「地域の負担軽減」「地域支援制度」「地域組織体制」などをテーマに、自らの組織を振り返り、話し合いを重ね、地域と行政の具体的な役割分担や、地域コミュニティのあるべき姿について、検討を行ってきました。

併せて、市内2地域で取り組まれている「福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業」や行政内の検討状況の報告を受けながら、地域運営組織の連携イメージをまとめました。

地域コミュニティは同じ地域に生活する住民同士がつながりあい、暮らしを支え合う組織や営みです。それぞれの地域コミュニティや行政・専門機関が連携・協働し、複雑・多様化する地域課題の解決に取り組むため、「役員主体の地域づくり」から「地域住民をはじめ多様な主体の参画による『みんなで共に創るまちづくり』」へ転換することにより、人口減少社会にあっても、安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざしていきましょう。

2020年（令和2年）1月20日  
福山市地域コミュニティのあり方検討委員会



## 地域と行政の役割・取組

### 論点 1 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討（みんなで取り組む地域づくりへの転換）

<p>&lt;課題&gt; 役員中心の地域づくり ↓ &lt;めざす姿&gt; ・新たな担い手の発掘・育成 ・みんなで取り組む地域づくりへの転換</p>	<p><b>【開かれた組織への再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員と住民が本音で話し合える場づくり</li> <li>・地域づくりの目的を地域全体で共有できる場の開催</li> <li>・役員以外の住民や外部人材が参加できる環境づくり</li> </ul> <p><b>【担い手の発掘・育成，多様な主体の参画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員による活動のバックアップ及び次世代リーダーの育成</li> <li>・自主的に活動したい人の受け皿を検討</li> <li>・新たな担い手の募集・発掘の仕組みを構築（モデル事業で実証中）</li> </ul>	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">地域の取組</div>
--	---	--

### 論点 2 複雑化した地域自治組織のスリム化，各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討（地域組織・協議体の再構築，会議や情報伝達方法の研究）

<p>&lt;課題&gt; ・役員の多忙化 ・複雑化した地域自治組織 ↓ &lt;めざす姿&gt; ・事業活動，類似組織のスリム化 ・役員の選出の見直し ・ICT化の推進</p>	<p><b>【組織の再構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの事業活動を振り返り，目的を確認</li> <li>・少子化や人口減少に合わせ，組織を再編（近隣との統合など）</li> <li>・充て職を減らし，役員の負担を軽減</li> <li>・役員以外も含めた地域全体から役員を選出するシステムの検討</li> <li>・少子化や人口減少を見据え事業を見直し（類似事業の統合）</li> </ul> <p><b>【会議・情報伝達方法の研究】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な会議の開催（伝達だけの会議をやめるなど，内容や会議出席者を検討し，開催回数や開催時間を工夫）</li> <li>・ICTを活用した情報伝達方法の検討</li> </ul>	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">地域の取組</div>
---	---	--

### 論点 3 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域への負担の軽減）

<p>&lt;課題&gt; 行政からの膨大な依頼事項による地域負担の増大 ↓ &lt;めざす姿&gt; 依頼事項の抜本的な見直しによる地域負担の軽減</p>	<p><b>【情報発信方法の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧の見直し，削減</li> <li>・紙媒体（チラシ）の削減の検討</li> <li>・ICTを活用した情報共有の仕組みを検討</li> </ul> <p><b>【出席依頼の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・類似の会議やイベントの統合，事業の見直し</li> <li>・動員を減らす</li> <li>・会議・イベントを全庁で共有できるシステムの構築</li> </ul> <p><b>【委員推薦依頼の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼内容の見直し</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: blue; font-weight: bold;">行政の取組</div>
--	---	--

### 論点 4 行政による地域支援体制の再構築・強化（庁内連携，職員の意識改革・地域コミュニティ支援方法の確立）

<p>&lt;課題&gt; ・縦割りの地域支援 ・地域に寄り添う姿勢が希薄 ↓ &lt;めざす姿&gt; 地域活動を支える支援制度と体制の確立</p>	<p><b>【地域活動の支援体制の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を支える拠点づくり</li> <li>・関係機関へつなぐ相談窓口機能の整備</li> <li>・職員の意識改革</li> </ul> <p><b>【地域活動の支援制度の構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に応じた財政支援への再構築</li> <li>・各種助成・支援制度の申請などの書類（書式）の見直し（簡素化）</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: blue; font-weight: bold;">行政の取組</div>
---	--	--



## 議論を踏まえた人口減少時代の地域づくり

### ■これまでの地域づくりの課題

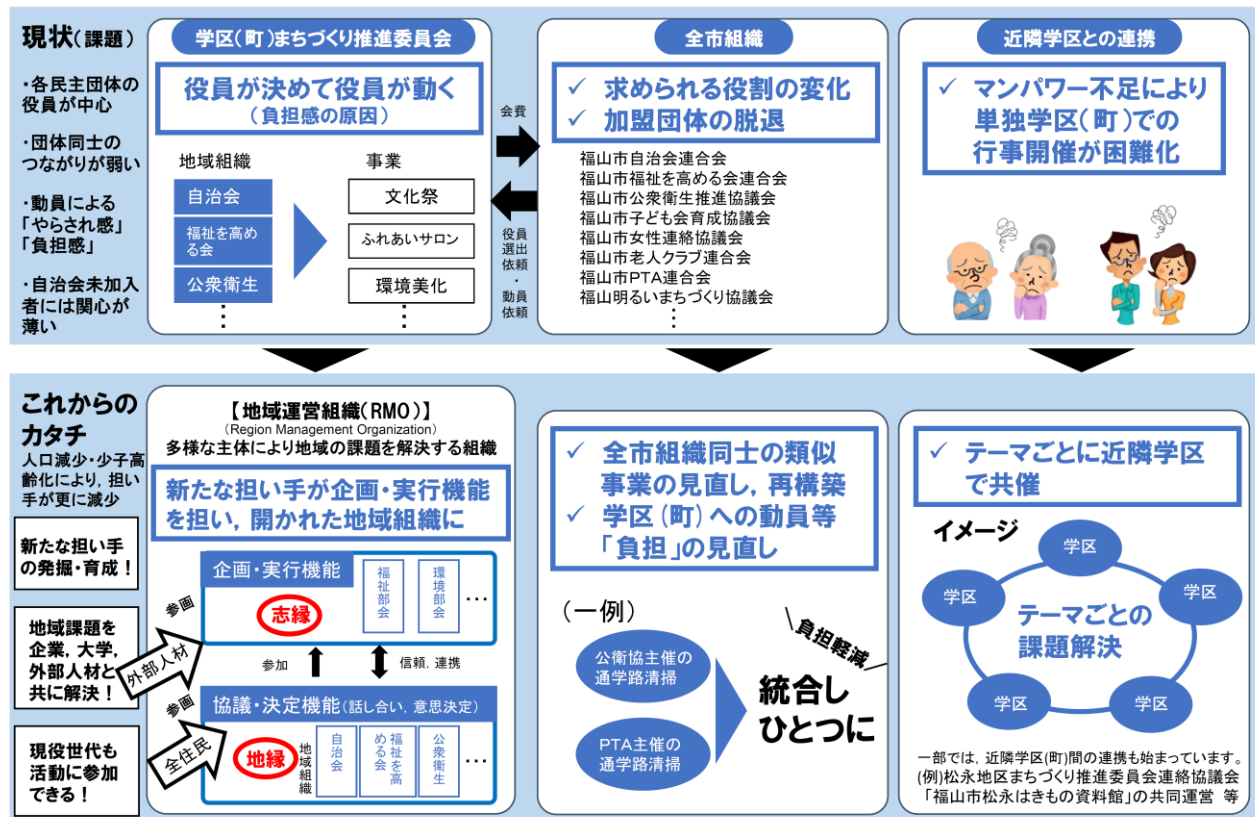
本市の地域づくりは、自治会連合会など地域で活動する各民主団体の役員を中心に行われていますが、人口減少・少子高齢化の進行に伴う、担い手不足などにより、役員の負担感が増しており、役員が企画・立案し、決定承認し、更には実施まで担う現行体制には限界が生じています。

### ■議論を踏まえた今後の地域づくり

現状を打開するためには、新たな担い手の発掘・育成による「みんなで取り組む地域づくり」への転換が必要であり、次のとおり取り組むべきものと考えます。

- ・開かれた地域運営組織に（幅広い住民による座談会を通じた担い手の発掘，外部人材の参画等）
- ・近隣学区（町）との広域連携（テーマごとにつながり合い，地域課題を解決）
- ・全市組織の活動の見直し（類似事業の統合，動員などの負担軽減）
- ・地域を支える横断的な行政支援（縦割りではなく横断的な連携により地域を支える仕組みを構築）

### 議論を踏まえた地域コミュニティのあり方 ～現状とこれからのカタチ～



これらの取組を相互に連携しながら進めていくことで、地域課題を着実に解決に導き、特定の人だけに負担が偏ることなく、人口減少時代においても、安心して暮らせる持続可能な地域共生社会が実現するものと考えます。



## 全市組織の活動の見直しに向けて

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会で検討された、今後の各民主団体の課題及び取組の考え方は次のとおりです。

### ■各民主団体の課題・取組

団体名	課題・今後の取組の考え方
福山市自治会連合会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率の低下が課題であり、自治会・町内会への加入促進の取組により<b>組織強化を継続</b>する。向こう三軒両隣が、顔が見える状況にあることが必要である。</li> <li>・地域における防災・減災の取組は今後ますます重要となる。<b>災害時に自助・共助の活動が行えるよう</b>、行政などと協働で行うことが必要である。</li> <li>・回覧・配布物について<b>精査・スリム化</b>し、単位自治会長・班長などへの負担を軽減することが必要である。</li> </ul>
福山市公衆衛生推進協議会	<p>学区の委員会が無くなる地域もあり、それをどうやって再構築するかが大きな課題である。<b>全市組織と学区が情報を共有し</b>、自分たちができる公衆衛生活動を考え、地域の衛生意識、環境意識をどのように育てるかが課題である。</p>
福山明るいまちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学区（町）選出の<b>中央委員のあり方を検討</b>したい。</li> <li>・財源は会費と補助金であり、多くの活動は行政の施策と一致している。民主団体ではあるが、活動は事務局（市職員）が支えている状況であり、課題と考えている。</li> <li>・今後の活動のあり方を<b>会員や各委員会委員と検討</b>したい。</li> </ul>
福山市子ども会育成協議会	<p><b>会員数の減少と指導者の高齢化</b>が課題である。地域の協力を得て、<b>地域ぐるみで子どもを育てる気運</b>を高める中で、<b>保護者の負担を減らし</b>、会員増につなげていくかを考える。</p>
福山市女性連絡協議会	<p><b>会員数の減少と男女共同参画の更なる推進</b>が課題である。<b>取組目標を明確にし</b>、それに賛同・共感してくれる団体を見つけ、<b>対話し交流</b>するなど活動を広めていく取組が重要だと考えている。<b>受身から能動の姿勢</b>で課題に取り組めるような成長をめざすために、<b>情報収集力や課題の明確化</b>など、一人ひとりが育成されることが重要である。</p>

団体名	課題・今後の取組の考え方
福山市老人クラブ連合会	<p>会員の高齢化が進んでおり、体力低下や疾病、孤独、孤立が多く見られる。健康寿命を延ばすために、できるだけ楽しい集いや話し合いの場を多くもち、人と人との助け合い、支え合う活動をめざし、フレイル(*1)の予防に努めたい。</p>
福山市福祉を高める会連合会	<p>これからの高齢化社会に「福祉」は欠かせない。50～60歳代の方々に、活動に関心を持っていただいて協力体制をとりたい。次の世代にうまくバトンタッチしたい。</p> <p>また支える側、支えられる側が共に対等であること、支える側も活動を通じて、活力が得られることが理想だと思う。</p>
福山市PTA連合会	<p>少子化が進んでいくなか地域とのつながりが薄れていく可能性があるため、まずは地域とのつながりを絶やさないと努力が必要だと思う。</p> <p>今後は、現状を踏まえた活動に見直し、縮小し、役員だけが大変な思いをするのではなく、責任を分担・軽減して多くの人に関われる団体をめざす。</p>
福山市社会福祉協議会	<p>地域づくりというのは地域課題の解決、地域の暮らしを支えるということであり、まさに「地域福祉」である。地域の課題は他人事ではなく、自分のこととして解決していく。また、そういう仕組みを作っていく。様々なことを包括的に受ける相談支援体制を作る。行政・社会福祉協議会、幅広い団体の協働の中で地域共生社会の実現に取り組み、その中核を社会福祉協議会が担っていく。</p>
地域づくり塾修了者 (まちづくり推進委員会、 学区自治会連合会、単位 自治会・町内会などの 地域活動の実践者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの後継者（40歳代50歳代の世代）に引き継ぐ体制づくりが大事。</li> <li>・地域活動に新しい人を入れる努力や、違うグループの意見、新しい発想を取り入れること（頭ごなしに否定しない）など意識をもって行う。</li> <li>・情報共有はメールで行うなど、会議の数を減らし、行事を統合する。各種団体の年間行事を共有しながら進める。</li> </ul>

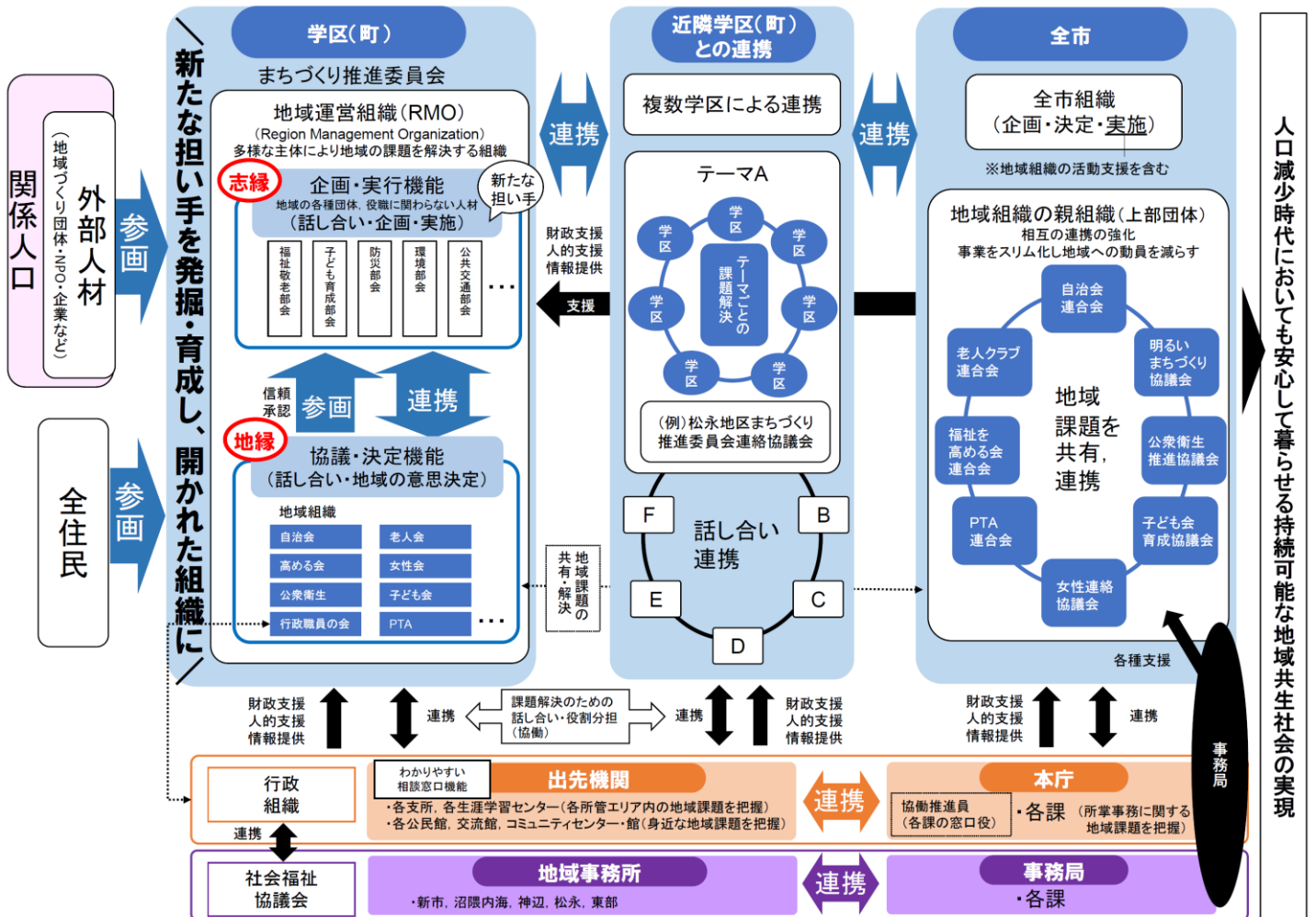
\*1「フレイル」…加齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態の危険性が高まった状態。  
早期の予防の取組を行うことで、元気な状態を取り戻せると言われている。





## 4 人口減少時代の地域コミュニティのかたち～みんなで共に創るまちへ～

人口減少が進むこれからの地域社会においては、多様な主体により地域の課題を解決する学区（町）まちづくり推進委員会が、複数学区と連携し、テーマごとの課題解決に取り組んだり、全市組織や行政，社会福祉協議会とお互いに情報を共有・連携し、みんなでまちづくりを行う必要があります。



地域づくりは特定の役員のみにより行われるものではありません。誰もが参加できる開かれた話し合いの場で、地域の課題を話し合い、解決に向けて連携・協働することが必要です。

全ての組織同士が連携することで、人生100年時代のなか、少子高齢化，人口減少の進む地域コミュニティにおいても、地域みんなで暮らしを支えあうまちづくりを行い、地域共生社会を実現していきます。



# 行政施策の展開イメージ

人口減少時代においても安心して暮らせる持続可能な地域共生社会の実現

## めざす姿

「みんなで共に創るまちへの転換により、役員の負担が軽減されている。

「新たな人材」の発掘・育成が進み、持続可能な地域運営組織へ転換されている。

市民ニーズを踏まえた行政支援策が構築され、地域をサポートする体制が整っている。

## 2023年度

## 2021年度～

## 2020年度

## 2019年度

多様な主体により、検証⇒見直し⇒施策推進⇒進捗管理を繰り返す

コミュニティ再構築の動きが  
全市的な拡がりへ

- 地域コミュニティのあり方検討委員会 (市民)
  - 持続可能な地域コミュニティのあり方について協議・検討し、方向性を市へ報告 (2020年1月20日)
  - 各団体が見直しに向けた検討を開始
- 人口減少時代の地域コミュニティを考えるシンポジウム (仮称)
  - モデル事業、検討委員会の取組を共有 (2020年3月15日)

- 地域コミュニティ推進に係る懇談会 (多様な主体) (継続)
  - 民主団体や地域コミュニティの事業・組織の見直し (取組を共有し、再構築に向けて協議する場を開催)
  - 行政と地域の役割分担を検討
  - 地域への支援制度の具体協議
- 指針等、必要な「ガイドライン」策定
- 地域・事業者・行政等多様な主体による取組の共有・検討
- コミュニティ政策の推進及び進捗管理

- 持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業
  - 地域でのコミュニティ再構築に向けた取組の支援
  - ※実証モデルは上記シンポジウムで共有
- 地域づくりに関わる人材の育成
  - 地域づくりに意欲をもって、関わる人を増やす「地域づくり講演会」「地域づくり塾」

- コミュニティ再構築の動きを他学区へ拡充
  - 「地域づくり座談会」
    - コミュニティ再構築に取り組む地域の話し合いをサポート (継続)
    - 全市へ共有する報告会を開催
  - 「地域づくり塾」 (継続)

- 地域コミュニティ再構築検討会議 (庁内会議)
  - 地域コミュニティのあり方検討委員会の議論内容、担当者・課長級会議の検討状況を踏まえ
  - ↓
  - ・地域と行政の役割分担の整理
  - ・地域の負担軽減策の検討、実践
  - ・財政支援策、支援体制の検討
- 地域づくりに関わる職員を育成
  - モデル事業等により、地域をサポートする人材を育成
  - 地域づくりを支える公民館・交流館・コミュニティセンター・館の支援

- 地域への支援制度を再構築 (継続)
  - 地域への負担軽減策を実施
  - 地域と行政の役割分担に基づく財政支援策及び支援体制の再構築
  - 地域の実情に応じた財政支援
  - 地域に寄り添う支援体制
    - ・話し合い支援
    - ・地域調査支援
    - ・プロジェクトの企画立案への助言
    - ・情報発信支援 など
  - 地域コミュニティを支えるための研修 (継続)

みんなで方向づける

人材発掘・育成

地域に寄り添う体制づくり

## 地域コミュニティの持続性を高めるために ～誰もが本音で話し合える場の重要性～

地域の役員だけでなく、幅広い住民や外部人材も含めた多様な人々が、地域の課題を本音で話し合う開かれた場をつくることが重要です。新しい意見・発想を尊重し、年齢に関係なく誰でも地域課題について発言し、話し合いができる環境をつくります。

### 【話し合いの進め方】

#### 1 事業などの棚卸し

地域ではこういった事業・活動を実施しているのかを共有します。みんなで気になることについて自由に話し合います。それぞれの事業・活動について、発想や今までの取組方法、関わり方を変えることで、他の事業との統合や他団体と連携して実施することが効果的な場合があります。

始めに話し合いのルールを決めておくと話しやすい環境が  
つくれます。

例えば、

- 今日は「決めない」話し合いです。自由に発言を！
- 限られた時間なので進行に協力してください。  
(1人が長い時間話さないように気をつけましょう)
- 周囲の意見にしっかりうなずきましょう！

みんなで  
本音の  
話し合い

#### 2 事業等の目的を確認（徹底的な振り返り）

「今まで実施していた事業は何のために行うのか」「今の社会にあった取組なのか」をみんなで検証・振り返りを行います。長年実施する中で、社会背景も変化しているため当初の目的と現在の事業内容にズレが生じたり、ニーズが変わっている可能性があります。

#### 3 みんなが納得

地域の課題解決につながる取組を、みんなで話し合いながらとりまとめ、優先順位をつけて年間事業計画を作成します。みんなが納得して一緒に活動できる地域になります。

#### 4 みんなで楽しみながら地域活動を持続可能に

多様な主体が参画し、みんなが話し合っただけで企画・実施する開かれた組織となり、楽しみながら活動することで、コミュニティ活動が持続可能になります。

複数学区が同じ課題を共有し、  
連携できる場ができました！

各種団体の年間行事を事前に  
すりあわせてブッキングなし！

### 誰でも話し合える場

どういった事業があるのか（事業などの棚卸し）

何のために行うのか（事業などの目的を確認）

みんなが納得  
(優先順位をつけ、話し合いながら事業計画等を作成)

みんなが楽しめる持続可能な地域活動へ

同じ月に実施していた学区の  
フェスタと総合防災訓練  
を一緒に開催しました！

事業を整理・統合

2つの会合に同じ人が  
出席していたため、時間  
をずらして、同じ日に開  
催することにしました。